

2023年1月5日

2023年 会長・社長 年頭挨拶

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社(TOKYO MX)は、本日1月5日新年祝賀式を開き、代表取締役会長・後藤亘、代表取締役社長・伊達寛が社員に向けて次のように挨拶しました。

【挨拶】後藤 亘 代表取締役会長

皆様、あけましておめでとうございます。

今年は、開局30周年を迎える2年前となりました。1995年に開局し、2025年がその年であり、あと2年ほどしかありません。何をどのようにするか、皆で楽しんで考えてみたいと思います。

このコミュニケーション業界も、本当に複雑怪奇にも、劣悪にもなってしまう可能性があります。ですが、まだまだ開発の可能性も限りなくあるとも言えます。

人間の頭脳の面白さであるので、ひたすら頭脳の挑戦だと思えます。言い換えれば、新しい企画にチャレンジする人間の頭脳のパワーを楽しんでみることで、そういう風に考えます。

2年後の30周年に向けて、今年から皆さんと一緒に徐々に計画を立てながら、先を見据えながら、いろいろと提案をしていきたいと考えております。

皆さんと一緒に2025年の30周年に向けて挑戦をしていきたいと思えます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

【挨拶】伊達 寛 代表取締役社長

新年あけましておめでとうございます。

昨年末に放送した当社の番組『寺島実郎の世界を知る力』の中で、混迷する世界の情勢について、「3つの帝国の衰退」「世界の構造変化」と題し、ロシア・中国・アメリカ衰退後の秩序として全員参加型へ、とりわけ南半球—グローバルサウスと呼んでいましたけれども—グローバルサウスの胎動として、インドをはじめとする東南アジア、アフリカ、中南米、中東に注目していました。

デジタル時代における世界秩序の模索、新しい時代が始まるとの分析をしていました。

我々メディアも世界の動きと切り離しては生きていくことはできないと思えます。

テレビ放送についても、ネット社会における存在が問われ続けた十数年間だったと思います。当初は、放送が長い年月をかけて築いてきた優位性、既得権をベースにネットを考えた時期もありましたが、今、皆さんどうでしょうか。視聴者の動向を皆さんが一番肌身で感じていることと思います。

TOKYO MX開局30周年の2025年に向けて、「テレビは生き残れるのか」などといった引きこもりの考えではなく、TOKYO MXはどう時代を取り込み、東京で暮らす人々にとって必要とされる放送局になるのか、そして様々なプラットフォームを活用して東京の魅力、我々のコンテンツを日本全国、そして世界に発信できる企業にするか、その中でビジネスを構築する軍団となれるか—そのような企業グループを目指したいと思います。

8年前に他社に先駆けネット同時配信「エムキャスト」をスタートしたTOKYO MXのDNAの原点に立ち、時代の先陣を走る我々の時代が来たと考えたいものです。

そのためにも、今年は重点テーマとして「全社員がプロデューサー目線でクリエイティブ第一主義を実践する」、2番目として「挑戦を評価する人事制度を確立する」という2つを掲げたいと思います。

今年は、新しい第2スタジオも建設します。ここから様々なコンテンツが生み出され、そして新しいビジネスが創出されることを期待して、新年の挨拶とします。

以上